

# 探究の過程を取り入れたレポート作成

中津高等学校 藤谷 桜子

## 1 研究のねらい

「探究の過程を取り入れた授業デザイン」のテーマを踏まえて、生徒自らが設定したテーマや提示されたテーマに対して、情報収集・整理をしたり、仲間と意見交換・協働しながら学習を進めていくことで、思考力や表現力を育成したり、自主学習のサイクルを構築することを目的とする。

## 2 実践した内容

1, 2年生の化学基礎、地学基礎、生物基礎の授業において、「探究レポート」を作成する。化学基礎では授業ですでに取り扱った内容について、教科書にあるその章のポイントや問題提起を参考としたテーマ（探究内容）を教員が設定し、metamojiにて作成・提出をさせる。生物基礎と地学基礎は化学基礎と同じように行うこともあれば、これから取り扱う内容について自身で調べたいテーマを選び、ノートやポスターなどを用いてレポートを作成・提出する。すべての科目に関して自身の取り組みに対する評価や振り返りを記入させる。本校では提出の義務があるものを「レポート」、提出義務の無いものを「課題」とし、レポートの作成時間は基本的に授業内とし1~3コマを使う。その間に教員に質問をしたり、仲間同士で交流することもできる。

## 3 実践中および実践後の生徒の変容

教科書や資料集、場合によってはタブレットやスマホを用いて情報収集・整理をし、レポート作成を行った。図やグラフを用いてまとめる生徒や、手書きのイラストを用いて内容をまとめる生徒もいた。仲間のレポートの様子をみて、次回以降の自身のレポートを改良するものもいた。



## 4 研究のまとめ

### ① 反省点

探究レポートの作成によって学力や理解度等が伸びたかどうかを判断することができない。学校でのテストの点数や模擬試験の成績などが劇的に伸びているというようなデータはまだない。この取り組みは生徒の自主的な学習活動（自身で理解する、まとめる、次の学びにつなげ

る)のサイクルを構築することを目標としているが、いわゆる宿題のように提出直前になって教科書の内容を丸写しのような形で提出する生徒もいる。

② 展望

生徒の学力や理解度の伸びを確認することはできなかったが、教員自身が生徒がどの程度理解できているかを確認することができた。はじめは文章の丸写しのようなレポートを作成していた生徒も回数を重ねる毎に自身が変わりやすい、見やすいレポート作成をすることができるようになった。日々の学習や模擬試験・入試対策の勉強の際に自身の理解度を深めるような学習ができるようにレポート作成の形態を日々改良していきたい。

※今回の評価の分野は【主体的に取り組む態度】として位置付けた。探求レポートと実験レポートの合計点を100点換算してABCに反映している。